

岡山醫學會雜誌

第60年第1,2號 (第655, 656號)

昭和23年5月31日發行

補習講座

最近「アメリカ」醫事雜觀

田中文男

(昭和23年4月24日岡山耳鼻咽喉科専門醫會講演)

私は此題の下に、岡山軍政部衛生課長 Capt. Session の厚意により借覽し得たる、「アメリカ」醫師會雜誌 (Journal of American Medical Association 以下 JAMA と略記) の昨年12月號並に本年1月號、及び New England Medical Journal 12月及び1月號に於て、私の注意をひいた點の外に、米國週刊雜誌 Newsweek 並に Time の過去約1ヶ年に於ける醫事欄に抄録されたるものゝ中、注意すべき又は興味を引いた事項の一部を加へて、本日諸君に御話し致します。蓋し此 Newsweek 並に Time 誌共に通俗雜誌であるが、其 Medicine 欄に抄録してある事項が非常に正しく引用してあることは、今回私が閱讀した JAMA 中の注意すべき報告が正しく此 Newsweek 並に Time の醫事欄に抄録してあることよりしても明かであり、此等の記事は充分信用し得るものであるからである。

之に先だち一言「アメリカ」醫師會 (American Medical Association) に就て述べたい。此 AMA は設立以來昨年をもつて第100年に當り、昨年其第100年記念總會が行はれた古い歴史を持つもので、現在「アメリカ」の全醫師數約19萬人の中、13萬人が其會員であり、

世界最大にして最有力なる醫師會であり、此會から機關雜誌 JAMA を發行して居るのである。而して此雜誌は週刊で、御承知の如く實に堂々たる體裁のものであり、發行部數は毎週13萬部以上 (この發行部數は雜誌の表紙に明記してあります) に達し、毎號醫學研究及臨床、醫政及醫療器械の嚴正なる批判等を掲げ、「アメリカ」醫師會即「アメリカ」醫師會雜誌であると目されて居る有力な雜誌である。そしてこの雜誌は廣告料だけでも1ヶ年の收入175萬「ドル」に達し、之によつて此會の大部分の經費を賄つて居るそうであり、此雜誌の1ヶ年購讀料が僅か8「ドル」に過ぎないと云ふことは、矢張その費用の大半は廣告料から補はれて居るものと考へられる。(但し本年1月から1ヶ年12「ドル」に値上になつて居る。)

殊に此雜誌は Dr. Fishbein が編輯主任となつて以來著しく發展したもので、此編輯主任が即 AMA の代辨者であり、「シカゴ」市に在る8階建の莊麗なる醫師會館も主として Dr. Fishbein によつて建造されたものである。此會館は又「シカゴ」名物(?)の1ツとなつて居り、「シカゴ」遊覽「バス」の1ツが此會

館の前を通る時に、案内人はこゝで喇叭を吹き “Ladies and Gentlemen! This is the American Medical Association, founded by Dr. Fishbein. . . .” と叫んで居る位であるが、かゝる流儀の鳴物入りの宣傳は、最早「アメリカ」近代醫人の喜ぶところとならず、近年會員中に多數の反「フキツシュバイン」黨を生じて居るが、彼の功績は没す可きもない。彼は本年 58 歳、36 年前 (1912) 醫學校卒業後 1 ケ年にして此雜誌の編輯助手となり、以來編輯専務であり、1 ケ年の俸給 24,000 「ドル」、外に略同額の著述及講演料の収入がある (Time)。成程凡て醫師會乃至醫師會雜誌も生活に安んじて之に専任して居る有能なる醫師の主幹が無ければ充分其機能を發展し得ないものだ云ふことは、我々にも大に參考になることでありませう。

而して此雜誌の 3 大目標とも見る可きものは、1. 醫學研究の支援獎勵、2. 非醫者及不良藥品並に不良器械に對する摘發指彈、3. 社會醫療制度反對であり、AMA は非常に此等に就て奮闘し來つて居り、Fishbein 自ら記す所によるも、非醫者並に不良藥品に對する忌憚なき批判發表の爲め總計約 3,500 萬「ドル」に上る損害訴訟を提起されたそうだが、1 回も敗訴したことが無いと云ふことであり、又 “社會醫療制度に對する戰” (“War against socialized Medicine”) は彼が編輯主幹になつた 1924 年以來堅持し來つたことを誇りとしてゐる。(History of AMA による)。

此等の事實は又大いに我々の參考になると思ひます。殊に不良醫師、非醫者、不良藥品、インテキ器械等は從來も、又殊に現在我國に屢々問題となり各人の話題となつて居るのであるが、當局に其熱力が無い今日、有力なる背景を有する醫師會雜誌の如き公器を用ひて此を指彈摘發せざれば、單に市井の私語に終るに過ぎないでありませう。日本醫師會にも日本醫師會雜誌があるが、從來この會員であつて此雜誌を購讀し、又は醫人で其存在を認めて居たものがいか程あつたであらうか。そ

して私が從來の日本醫師會は、主として醫政及醫療經濟を問題として代辨論議する政略的存在であると考へ來つたと申しても、單に私が此醫師會に迂遠であり無智であり不親切であるものとして、非難を受けなければならないでありませうか。幸に新しき構想を持つて改めて日本醫師會が設立した今日、私は日本醫師會即日本醫師會雜誌であり、日本醫師會雜誌は會員全部の雜誌であると云ふ状態に速かに到達せんことを希ふものであります。

New England Journal of Medicine は Boston を中心とする 1 地方雜誌であるが、其發行部數は約 25,000 部である。岡山醫學會雜誌は日本に於ても有數なる醫學雜誌であるが、此發行部數は月刊 3,000 部に達しない。發行部數は致方ないとしても、其發表せらるる所は、岡山醫科大學各教室に於ける實驗的研究が主であつて、直接臨床的のものは尠い、反省す可きことである。

さて此 JAMA に就き其 12 月 20 日號並に 1 月 17 日號を通讀して注意をひいた要點のみを申しますと、醫學的方面では、抗菌性物質 (Antibiotic agents) に就ての研究で Dr. Flemming と共に「ノーベル」賞受領者である英國の Dr. Florey の “New antibiotic agents” と題する論文がある。是は AMA 100 年記念總會の特別講演で其要旨は次の如きものである。

Phenomenon of antibiosis (抗菌現象) は 70 年來知られてゐたことであるが、臨床上には 1939 年 Dubos が Bacillus brevis が、強力なる抗菌物質を産出することを發見し、Tyrothricin と名づけたものを製出したのに始まる。然しこれは動物の血液中に非常に毒性を示し、爲めに人間に對しては單に外用のみに應用するに止まつたことは甚だ不幸であつた。と云ふのは、其後たゞ 1 年にして「ペニシリン」が發見されたからである。

元來臨床上に使用し得る抗菌物質は主として次の要素を具備しなければならない。

1) 抗菌性强きこと。 2) 毒性の尠いこと。これは單に人間の身體に對してだけでなく、

細胞、白血球及腎臓に對しても同様であるべきこと。3) 體液の存在の下に有効なる可きこと。4) 安定性を有すること。5) 餘り早く腎臓から排出せられざること。6) 此連續使用により細菌の抵抗力を増加せしめざるもの等である。此等の點に合致して居るものは今日「ペニシリン」が最良のものである。

「アメリカ」に於て「Penicillin」は Sulfamin 同様、使用を続けるにつれ、細菌の抵抗力を増すものと一般に信ぜられてゐる様であるが、Penicillin は成程試験管内では此事實を證明し得るが、生體內に於ては幸に此作用は割合に非常に弱いと云ふことは注意すべきである。

此等抗菌物質産出の根原となるもの及産出物は

1) Fungi (菌類?) 此數百種が抗菌物質を産出するものとして認められ、殆んど毎日の如く新製剤が現はれて居るが Fungi imperfecti から大體次の 30 種が抽出されて居る…種目省略……此中に Penicillic acid がある。尙此中 Helvolic acid はあまり毒性も無く、腸管からも吸収されるが、容易に細菌に抵抗力を與へ、且又其効力は 100% とは言へない。

2) Basidiomycetes (擔子胞菌類) この多くのものも抗菌物質を出す、大部分のものは毒性が強いが、又はあるものは比較的効力が薄い。

3) Actinomycetes (放線状菌) これから産出された抗菌物質は Streptomycin の外に少とも Streptothricin, Grisein, Proactinomycin 等は注意すべきものである。

4) Bacillus (細菌) この抗菌物質類は大なる有望性がある。此中で Bacitracin, Licheniform の両者は動物實驗上頗る有効である。Thyothricin, Subtilin も此中の種目に屬する。

5) 誘導性抗菌質 (Induced antibiotics) 一微生物が他の微生物と密接なる關連の下に増殖すると、他のものに對してある抗菌物質を産出することがある。之に就ては尙將來大に研究を要する。

之を要するに近世化學療法に對しては、細菌學の智識が一層肝要となつて來た、そして最近の治療學は細菌學並に實際醫學に就ての科學的智識の一層密接なる連絡をもたらし、かくして尙將來、自然に起りつゝある抗菌物質の抽出並に其研究は、尙一層此方面よりして人類に對して大なる幸福をもたらしに至るであらう。

以上が Dr. Florey の論文の大體である。

其他 JAMA で私の注意をひいた點は、矢張依然として社會醫療制度に對する熱烈なる反對行動であり、1月號所載の 1月5日より8日迄3日間「クリーブランド」市 (Cleveland) で開催された AMA の中間總會の状況にも明かであるが、これは後に纏めて別に述べたいと思ふ。

非醫者的行爲並に不良醫療器具に對する攻撃も亦た同様に力強い。醫療器具として指彈されて居るものは多くは家庭應用のもので、殊に此頃「アメリカ」では電擊療法が注意されて居ると見え。家庭用電擊療法器械の「インチキ」が會社名を掲げて暴露されて居る。

又此雜誌の 1 特長であり、戦前は私はいつも熟讀して居た各國の醫學雜誌の掲載題目と其注意すべきものに就ての内容抄録が、昔の通りに列記して在るのを見て懐かしく感じたが、「ハンガリー」のものはあるが、獨逸の醫學雜誌に就ては一行も印刷されて居ないのは非常に淋しく感じた。獨逸國にも米國及英國軍隊が駐屯して居る。其區域内に於ける雜誌はもし刊行されて居るとすれば入手出来るだろうと思ふ。斯く考へると、第 1 次世界大戰中にも缺號無く發刊し續けた獨逸の醫學雜誌も、今度は愈々中絶して居るのではあるまいか。日本の現状と思ひ合せて戦争が學問にまで及ぼす大なる慘禍を嘆かずには居られなかつたです。

其外に尙注意すべきことは、JAMA の 1 月號に、本年 1 月より 7 月 15 日迄の期間中に米國內の醫學校、病院、研究所等に於て、復員醫師並に一般醫師に對する補習教育の目錄 (Postgraduate courses for veteran and civi-

lian physicians) が編輯されて居り、其病院等の名前、實習の時間、授業料等をも表示されて居ることである。此中で耳鼻咽喉科に関するものだけでも約 30 ケ所に於て開催されることを知つた。これは其中には名儀だけのものもあるかも知れないが、兎に角これだけ補習教育に力を注いで居ると云ふことは、我々の反省を要することであらう。姫路市外廣畑製鐵所に收容されて居た 1「アメリカ」俘虜軍醫大尉が在留中親切公正なる待遇を受けたとて同病院耳鼻咽喉科醫長上塚君に對し、歸米後度々感謝の手紙を寄せ、私もそれを見せて貰つたが、その 1 つによると、歸米後胃鏡検査の講習を受け南部地方で開業し、胃鏡應用に非常に興味と利益を得て居ることが報告されてあつたことは、この良き實例でありませう。

雑誌の廣告の中にも、最近の醫事に關する一端を知ることが出来ました。此廣告で特に目についたのは Penicillin in Oil and Wax の廣告で、これは Penicillin を落花生油及密蠟 (Peanut oil 及 Beeswax) に混合したもので、普通の Penicillin 容積中に 10 cc を藏し居り、其特長とする所は、注射後吸収が緩慢な爲めに長時間血中に有效量を保存し得ること、従つて普通 1 日 1 回の注射で足り、且此 1 cc 中に 30 萬單位 (1 瓶は 300 萬單位) を有して居ること、及室温に於て保存し得ること等である。日本にも近頃此種類のものが輸入されて居り、はじめ商人は此 1 瓶全部が 30 萬單位と誤り、且其使用法が少しく面倒な爲か或は不解の爲か醫師の間にも喜ばれず、はじめ暫くは可なり廉價に入手し得た様であつた。私も患者自身が之を持ち來つてはじめて、之を使用することになり、使用書を熟讀してやつと其使用法を了解し得たが、其効果は見る可きものがあつた。但し注射器の消毒操作が少しく面倒であり (全然水分を脱却せねばならぬ)、又油劑であるから注射しにくい點がある。そして又米國に於ては果して本劑が一般に用ゐられて居るものかどうかを疑つたが、軍政部の Dr. Session も之を外來患者用とし

て推奨して居たし、又此等雑誌の廣告を見ても、各會社が各自の製品及之に使用する特別の注射器の廣告等を多數出して居るのを見て、私の懸念を拂ひ捨てることが出来た。

次に學會のことに就き二三紹介しませう。

AMA 第 100 年記念總會

これは昨年 6 月 9 日から 13 日迄 5 日間 Atlantic City に於て舉行され、出席會員約 16,000 人に達し、學會行事の外に記念郵便切手の發行、「ラヂオ」放送特別番組等もあり頗る盛大であつた。陳列物には數百の器械、標本等の展覽の外に、「ビキニ」環礁原子爆彈實驗に生き残り今尙強く放射能力を發する一對の山羊の出場も注目をひいた。

總會演說の中には前述の Dr. Florey の抗菌物質に就ての講演があり、此席上には Penicillin の臨床上應用試験を擔當した女醫である美しき Florey 夫人も出席し、萬場の注目を浴びたようである。

各分科會に於てはそれぞれの専門的報告が行はれたが、凡てを通じて目立つたのは近年「アメリカ」國民の一般が大なる關心を持つて居る癌問題であり、之に就ても癌治療並に研究に於て有名である New York の Memorial Hospital の Director Dr. Rhoads の報告もあつた。氏は癌治療の方針としては、矢張手術に眼目を置く可きことを強調し、同時に之を補助又は調整する新手段に就て述べたが、1946 年中に癌其他の悪性腫瘍に對して應用試験されたものゝ中、最も注意す可きものは、軍服用毒「ガス」の 1 種として製出された Nitrogen mustards (HN_2) の外用であり、之を 126 の病院及研究所に送り 1,100 例の臨床報告があり、之はまだ不充分であるが、治療補助として尠からざる症例に著明なる良効果があつたとのことである。

尙 Dr. Rhoads の報告中、私達の専門領域の癌に就て言及して居るが、其中喉頭癌に關して氏の説くところの大意は、『喉頭癌に對していかに處理す可きやは今尙意見が一致して居ない。「ラヂウム」療法の統計で 110 例中 30 例が 5 年以上治癒して居ることは注意す

可きことであるが、一方に於て之に對する近代外科技術は進歩し、且又術者の熟練と共に226例の全摘出術中手術死亡數は單に4例に過ぎざるに至つたことは慥かに此手術療法により、今後從來より多くの全治例を見るに至るであらうし、他方又全摘出後の發聲工夫に於ても一段の進歩があり、今後は癌患者は「喉頭そのものよりも彼等の生命を重しとし」進んで手術的療法を選ぶであらう』と述べて居る。

此總會の席上陸軍大臣 Patterson は現下軍醫の重大なる缺亡を緩和する法案の支持を醫師達に希望して居る。之によると米國軍隊に於ける正規軍醫數は1,100人に過ぎず。然るに目下必要なる約1,000,000人の軍人に對する軍醫は6,000人を要し、其補充が大問題である。しかもこれは平時の場合のことであり、萬一第三次大戰勃發を見る如き場合は一層の増員を要す。之等に對して全醫師の協力を乞ふて居り、尙陸軍大臣は之に附隨して志願軍醫の待遇方法をも説明して居るが、それによると俸給は最低年3,640「ドル」より最高9,800「ドル」但し専門醫は25%増額で最高11,000「ドル」となり、且各軍醫に從來よりも多くの發言權を與へ、又階級も特殊の技倆經驗あるものは直ちに代將 (Brigadier) 又は少將 (Major General) に任ずると云ふことである。

此問題に對して AMA の President Dr. Rortz を委員長とせる特別委員會の報告は、會員達を聊か戸迷ひさせた様である。と云ふのは此報告は『將來の戦争は原子爆彈、毒物 (多分放射能性毒物)、細菌 (Virus and Bacteria) 等による都市並に工業地帯の大量攻撃であり、之に對しては24時間以内に全醫療關係者の全動員を必要とするであらうし、又かかる際には戦闘員と非戦闘員の區別は無くなるであらうと云ふことは軍人も醫師も一致して認めて居ることであり、且又此場合多分軍人よりも市民の損害が多いであらうから、醫師は臨機應變的に兩者に割當てらる可きである』と言ふのである。

AMA 總會のことは之で終りとして今1つの學會、

昨年度の「アメリカ」外科臨床醫會 (The annual Clinical Congress of the American College of Surgeon) のことを紹介しませう。

元來外科醫は常に他の手術を見學することが非常に有益であり、「アメリカ」の大病院の手術室は多くは公開され、醫師でさゝあれば比較的自由に見學が出来、此點は私には獨逸に於けるよりも「アメリカ」に於て得る所が多かつた。で「アメリカ」外科學會も毎年一流の病院の多い大都會で開催され、來會醫師が此等の病院の手術を見學するのに便宜を與へることを常規として居る。それで昨年の集會は9月「ニューヨーク」で4日間に亘つて催され、41の市中の病院が其手術室を見學者に開放したのであるが、各病院に於ける見學者數にはその設備上一定の限界があり、一時に多數の會員を招待することが出来ず、一病院につき5—15人等の割合に制限したので、従つて單に會員の一部が其熱望を果し得るに止つたが、今回は之に對して新らしき企てが試みられた。それはある病院の手術を「テレビジョン」によつて醫學會本部とされて居た Waldorf-Astoria Hotel (「ニューヨーク」市の名代の大「ホテル」) の集會場に映送し、數百人が一時に之を見ることが出来る様にしたのである。これは1日2回の割で4日間2「マイル」先の病院から「ホテル」の集會場に送られ、同時に「ラヂオ」は術者の講義或は説明を傳へ來り、小は手掌の手術から大は心臓と癒着せる胸部腫瘍の手術がこの「テレビジョン」によつて自由に觀覽することが出来、會員一同は多大の利益と満足を得たさうである。此利點に着目して Johns Hopkins Hospital では目下特に「テレビジョン」應用に適する新手術室 (New operating rooms 「複數」) を設計中であるとのことである。羨やましいことである。

此會合である病院の外科醫長 Dr. Foss と云ふ人が、「アメリカ」に於てはあまり多く無用の手術が行はれ且これが經驗少き未熟者に

よつて行はれて居ることに對し警告を發して居るが、その要旨は

“「アメリカ」の全病院は毎年略 14,000,000 人の病人が入院し其中の略半數が何等かの手術を受けて居る。しかも此等の手術の多くのものは手術する可からざるものであり、その中のあるものは執刀を許す可からざる未熟者によつて行はれて居る”と反省を促がし、氏は又“「アメリカ」の患者は更に又新らしき當惑に直面して居ると云ふのは、戦後復員したる約 40,000 人の若き醫師の多くの者は、病院に於ける外科醫の位置が尠い爲めに、適當なる訓練を受けずに直ちに外科醫として開業して居るからである”と警告して居ります。

これで學會のことを終り次に社會醫療制度のことに就て少しく述べませう。

AMA が社會醫療制度 殊に強制的制度に全面的に反對し “War against socialized Medicine” (社會的醫療制度に對する戰) は此醫師會の傳統の方針として今日に及んで居ることを誇りとして居ることは、昨年の同會 100 年記念總會を機として發刊された同會の歴史にも特筆されて居るものである。

而して此 AMA は本年 1 月 5 日より 8 日迄の 3 日間「クリブランド」市に於て中間總會を行つたが、此會合に「トルーマン」大統領は醫療制度に關する「メツセージ」を送つた。其大要は“我國民の多くのものは彼等の必要とする醫療費を支拂ふに堪え得ないのであり、これに對して一國民的健康制度が必要である。此制度の骨子は保險原則に立脚した醫療支拂の國民的組織であらねばならない…”と云ふのである。これに對して醫師會は特別委員會を開き、“我々國民並に其家族の數百萬人は、其入院及醫療の費用に對し既に我々醫人の自發的奉仕並に私立保險會社の設立等により保護されて居り、大統領の説く所より一步進んで居る。而して又大統領は此「メツセージ」中、彼がこれ迄保健問題に關する「メツセージ」中屢々使用した“Compulsory”(強制的)と云ふ言葉を明かに避けて居るが、我々は又既に任意的保險制度に就ての我々の計畫

を持つて居る”として、“「アメリカ」醫師會は強制的疾病保險制度 (Compulsory sickness insurance) に對する反對の見解を再確認した”とのことである。

斯様に「アメリカ」でも健康保險制度に對して政府當局と醫師會との間には見解及之に對する態度にかなりの差異があり、紛議がある。此 1 實例としては、「サンフランシスコ」市は 1938 年以來市當局と市醫師會との間に市の使用人及其家族の保險診療の契約が成立して居たさうであるが、昨年 11 月 10 日、935 人の保險醫は一齊に辭職した。これに關し市の保險課長 Dr. Keenan は、これは「アメリカ」醫師會が凡ての強制的保險制度を滅亡せんとする運動であると非難し、市醫師會長は“堪え得べからざりし 10 年間の決算である”と公表して居ることよりしても其一端を知ることが出来る。但し「アメリカ」には近來私立の疾病保險會社が設立され、加入者が一朝罹病の際には入院、手術、治療の諸費用を負擔し、これが可なり廣く利用され加入者も仲々多い様である。一般に青十字 (Blue Cross) と呼ばれて居るらしい。これは注意すべき、制度であらう。

此疾病保險制度に關し「オーストリア」の一開業醫からの書簡が JAMA の 1 月號に發表されて居たが、此手紙の要旨は、

“「オーストリア」は疾病保險に關する典型的國家であり、大臣、大學教授、會社社長はじめ國民全部が被保險者である。私は保險醫として 20 年の經驗を持ち、今や此制度に對して公正なる批判をなし得る自信を持つに至つたと信ずるが、初め此制度を可とした私は今は全く反對の立場に立つに至つた”と前提して、政府管掌の強制的健康保險制度の弊害と、却つてその人間に不幸をもたらす現状を訴え、「アメリカ」が未だこの強制的保險制度を實施せざるを「アメリカ」の幸福であることを賀し、之に反對し來つて居る AMA に敬意を表して居るのである。私は此手紙に又不尠注意を喚起された。そして「オーストリア」が強制健康保險制度國家の 1 であると云ふこと

にも亦た少しく興味を感じた。

英國に在つても最近此健康保險制度は可なりむづかしき問題となつて居るらしい。Newsweek 12月29日號によると、英國政府の厚生大臣 (Health Minister) Bevan が、英國醫師會に提示した意見によれば、此制度に従ふ醫師は基本給として1年300「ポンド」(約1,200「ドル」)を貰ひ、その上に、診療せる患者數に應じて其所得を加へ、假りに1,000人の此制度による患者があれば合計1,058「ポンド」の年収となり、4,000人の患者を治療すれば3,332「ポンド」の所得となる規定となつて居る。但し醫師が被保險者以外の患者を診療したり、又此保險制度に加入しないことも自由であるが、その場合には其醫師は開業を賣る權利 (The right to sell his practise これは私にはどういふ意味かはつきり分りません) を失ふとのことです。之に對して英國醫師會の即答は、大臣の申入れは “Traditions and standards of a great profession” (大なる職業の傳統並に立場) に抵觸すると反對したさうであるが、社會黨内閣の今日、本問題の將來は豫斷を許さないものがあることを感ずる。

さて最後に私は3,4の雜事を御話して此講演を結ぶことにする。

1. 米國々民の主なる5死因は前年迄は1) 心臟病、2) 癌、3) 腦溢血、4) 腎炎、5) 肺炎であつたが1946年度には、第4番目迄は同様であるが最後の肺炎は下位となり、主に代つて「事故」(Accident、但し自動車事故を除外する) が5番目に登場することになつた、肺炎の死亡率が減じたことは Penicillin, Sulfa 劑の應用の外に惡質の流行が比較的尠かつたからに因るさうである。

2. 「ストレプトマイシン」と結核 結核に對し「ストレプトマイシン」は可なり有效であることは明かになつたが、此治療は長引き且藥は仲々高價であり1「グラム」が4「ドル」で、1日に1—3「グラム」を必要とするから1ヶ月には單に藥代だけでも1,000「ドル」以上を要すさうであり、それで Dr. Slotkin (泌

尿器科専門) は癩病に大楓子油が効果のあることから考へて「ストレプトマイシン」に大楓子油を混用して應用したところ、前者の普通の1/10量に於て腎臟結核に著明の效果があり6例の腎結核が全治した。この有效作用は結核菌も癩菌も其外部は同様に蠟様被膜を有するが、此被膜が大楓子油で融解さるゝ結果「ストレプトマイシン」の作用が著明になると解釋して居る。それでこれを他の結核の治療にも御奨めするとのことである。「アメリカ」でも「ストレプトマイシン」は高價であると云ふ悩みがある。

3. 「ペニシリン」と蓄膿症と云ふ題で「リーダー・ダイゼスト」の4月號に「ペニシリン」の吸入療法が副鼻腔炎に非常に有效であり、「アメリカ」で非常に多い蓄膿症患者に大福音を與へて居ると云ふ記事がある。「リーダー・ダイゼスト」の醫事に關する記事は餘り信用が出来ないが、「ペニシリン」が蓄膿症に有效であらうと云ふことは慥かであらう。と云ふのは私はこの蓄膿症に對し上顎竇内に濃厚「サルファミン」溶液を注入してかなりの效果を見たことは嘗て報告したことがある。それから考へると成程「ペニシリン」は一層有效であらうが、吸入療法でなくこれを直接竇内に注入すれば一層其效果は確實であらうと推察される。そして又私は蓄膿症は特に日本人に多く「アメリカ」では割合に尠いと考へて居たが、此記事で「アメリカ」にも非常に多いことを知り興味を感じた。

4. 「ザウエルブルツフ」教授の今日 Prof. Sauerbruch は世界的の外科醫で少くとも獨逸に於ける外科醫中最大の榮譽と信頼を持つて居る人であり、1928年に「シャリテ」(大學病院)の外科醫長となり今日に及んで居るが、今次大戰中「ヒットラー」から3度「ナチ」賞 (Nazi awards) を貰つて居り、最近「ナチ」派放逐の裁判にかけられんとしたさうである。然し彼は戰時中公開演説に於て “獨逸科學者の自由” を要求したさうであるし、又「ベルリン」の最後の戰闘中、「ヒットラー」に急使を送り、危險に直面した病院患者を代表し

て即時戦闘を中止すべきことを勧告したとのことである。そして「ロシア」軍隊が伯林を占領した時「デューコフ」大將 (General Zhukov) は彼を伯林公衆衛生長官に任命したが、其後「アメリカ」の抗議によつて之を免ぜられ、元の大學病院に返り矢張外科主任となつて居り、本年 72 歳に達せるが尙頗る敏捷活潑で“余は醫師にして「ナチ」に非ず”と豪語して居るとのことである。(Time, August 4)

5. 醫療用としての「ラヂウム」に代るもの
「アメリカ」原子力委員會長 Lilienthal 氏の發表によれば、その作用は「ラヂウム」に比して少しも劣らず、而も非常に廉價にして多量に得らるゝ代用物を得るに至つた事が明らかにされた。即ち Oak Ridge の原子力研究所に於て、「コバルト」を「ウラニウム」中に於て處理する事により、これに「ラヂウム」と同様の放射能力を附したものであり、これは「アメリカ」の 4 大病院に於て、臨床的試験を行ひ其効果を確認し得たものであるが、その廉價に製出し得る點について Lilienthal は、“委

員會はこれに對して全然定價をつける事を考へてゐない”と云ふ位である。而も此放射能性「コバルト」は、「ラヂウム」と同様の「ガンマー」線を放出するが、「ラヂウム」と異り、屢々有害作用を起す「アルファ」線を有しないため、患者は勿論、醫師、看護婦、技術員等に「ラヂウム」よりも危険を與へることが少ないといふ長所がある。唯一つの缺點かも知れないことは、「ラヂウム」より放射能力の壽命が少ないことであるが、多量に存在する「コバルト」に速に放射能力を附し得るので、何時でも充分に需要を満し得るから、これは問題にならないと言ふ事である。原子爆彈製造過程の副産物として、此種の物が產出されはしないかと云ふことは、誰しも期待したであらうが、この發表は我々に大なる喜びを與へるものである。因に云ふ、米國に於ける「ラヂウム」それ自身の時價は、1 g 25,000「ドル」ださうである。(講演後附加. Newsweek, May 3, 1948)

子宮癌の診断と治療

岡山醫科大學教授

八木日出雄

子宮癌は婦人に發生する癌腫の中最も頻度の高いものでその診断といひ治療といひ古くから盛んに研究されて居るテーマであるが、今日猶新しい進歩の途上にあるもので、診断をあくまで正確にし、治癒率を出来るだけ向上させることは吾等に課せられた大きな責任である。茲に現在のこの問題に關する進歩の概況を記載し、専門醫並に一般醫師が如何にこの患者を取扱ふべきかの卑見を紹介いたし度い。

子宮癌には頸癌と體癌の二種があり各々かなり違つた臨床的態度をとるものである。頻度は從來成書に、頸癌 90%、體癌 10% 位と記

されてゐるが、我教室の統計では頸癌 95%、體癌 5% であり、最近の我國各大學の統計もこれに近づきつゝある。頸癌の診断が進んだ爲であらう、何れにしても頸癌は子宮癌の代表的のものであつて、子宮癌といへば頸癌を指すものと解してよく、従つて今回もこの頸癌の診断と治療に就て述べることにし、體癌は別の機會に譲り度い。

子宮頸癌は昔信じられたやうに老人にしかも多産婦人に起るといふやうなことはなく、發生年齢の範圍は非常に廣く 40 歳代が最も頻度が高いとはいへ 30 歳から 70 歳代に及ぶ殆んど凡ての年齢に起り、多産婦にも未産婦